第 2015-37 号

恵みと真理のニュース

2015 年 9 月の二次　恵みと真理教会
韓国 京畿道 安養市 萬安区 安養路 193 / ☎82-31-443-3731 / www.gntc.net

［証］ 霊的で眠っていた私を変えてくださり、主が下さった地上命令である福音伝道に戦力を尽くすように導いてくださった神様に感謝を捧げます

私は恵みと真理教会を支え当会長の牧師の聖書の通りの恵みを受けた信仰の家庭で生まれました。私が生まれる前から恵みと真理教会を支えていた親をついて教会に行き礼拝を捧げ奉仕しながら信仰生活をしました。青少年になっても相変わらず礼拝をして奉仕しましたが思春期になり世の中の価値観によって考えと信仰が揺れました。教団と教会を導くため忙しいなかでも当会長の牧師から相談を受けることが出来ました。

当会長牧師と相談時間は世の価値観で混乱だった心が恵みと御言葉によって整理して正しい聖書の価値観になる良い時間になりました。また、当会長牧師はクリスチャンの信仰のもとを見せて世の人々をついて空しい事をついて行くのでは彼らを主に導く者になるべきだと言われました。その話を聞いて今までの自分の行動を反省しました。そしてその瞬間から私の祈り課題は周りの人々を主に導くことになりました。しかし、信仰が弱くて話せられなくて友達に福音を伝えるのが恥ずかしかったです。友達に福音を伝えたくても出来ない自分にも怒って恥ずかしかったですが、勇気が出なくて自分の行動を合理化しました。

その後、神様から助けられ外国語特別選考で入りたかった大学に進学して経営学学生として勉強するようになりました。子供の頃から切に希望した通訳と奉仕もするようになり外国人にも説教を通訳する奉仕もするようになりました。神様の恵みを深く体験したからこそ今回は大学の友達に福音を伝えると強く決心しました。しかし、願っていた大学も入って子供のときから夢だった通訳もするようになると驕慢な心になって神様と遠くなりました。1年間信じる人々と交際するより世の友達と付き合うのが好きになり世の仲で光と塩になる役割を担えられませんでした。礼拝と離れ世から心を奪われ聖書の御言葉と違う生活をするようなったのもちろん礼拝生活にも熱心である周りの人々を見るときには“あんなにしないといけないのかな？”と考えました。キリスト人として優先順位を忘れ世も空しいことをついて行く生活をするようになりました。

そうするなかで私の母の涙の祈りがあって感謝し当時当会長牧師と面談する時間がありました。当会長牧師は“あなたがたの上に聖霊が降ると、あなたがたは力を受ける。そして、エルサレムばかりでなく、ユダヤとサマリアの全土で、また、地の果てに至るまで、わたしの証人となる。”（御言葉の内容で地の果は遠い国を意味するのではなく自分の周りが福音を伝播する出発点であり地の果てだと言われました。その話を聞いて福音を伝えるのがとても難しくて恥ずかしかった私が大きい恵みを受けて挑戦も受けました。

今までの福音を伝える使命を担えられなくて世の人々と同じく生活したことを悔い改めました。そしてこれ以上福音を伝える事をおそれなく、とても崇高な事だと悟り周りの友達を伝道し始めました。伝道したら教会には行きたかったですが一人で行く勇気がなくて誰から誘うのを待っていた友達を見ました。普通の行動を通してみる時、説教を世の知識で判断すると思った友達も伝えたらすぐ礼拝を捧げる姿をみて人々が教会に来るのは神様の導きだと思ってもっと熱心に福音を伝えました。ひたすら主の御言葉に頼って大胆に福音伝えたら短期間に多くの友達に伝道することが出来ました。

4月に軍隊へ入隊するため直接に伝道賞をもらえませんでしたが軍隊で働いている時にも福音を伝え軍隊の近くにある地域聖殿で共に礼拝して決信させました。軍隊の中で主の子供として信仰の良い影響力を与えるため熱心に御言葉を黙想して祈りました。軍生活をする軍人の仲で神様の御言葉を聴かなくて神様を信じなく者がないように福音伝道に力を尽くしています。

入隊した後部隊の教会で礼拝を捧げたら聖書中心の説教である牧師と違って世の話ばかりの説教でした。軍隊の血気盛んな青年の対象に説教するので特殊性を認めて礼拝を捧げてもいつも御言葉の切なさ感じる私をみながら今までの福音に根拠した御言葉で養育されたこと悟って教会に対する所属していることに感謝しました。自由に当会長の牧師の説教を聴き礼拝をすることができない状況なのでインタネットの放送で毎週発行する恵みと真理ニュースを通して御言葉の説教を聴いて大きく恵まれています。

弱くて足りない私を変えてくださり異端と福音を紛らわしくする者達が多い世の中で福音的な恵みと真理教会で属して信仰生活するように導いてくださった神様に感謝を捧げます。聖書を根拠をした説教をしてくださった当会長牧師にも感謝します。軍隊にいる中でも聖霊に満たされ相変わらず福音を伝え特技である日本語を通して日本人にも正しい信仰を持つように忠誠で福音伝道する者になることを希望しています。子供の頃私の告白を聞いて神様の時期に働いてくださって友達を主の所に導いてくださったように今も私の告白を聞いてくださり神様が働くことを信じます。

“「主の名を呼び求める者はだれでも救われる」のです。ところで、信じたことのない方を、どうして呼び求められよう。聞いたことのない方を、どうして信じられよう。また、宣べ伝える人がなければ、どうして聞くことができよう。遣わされないで、どうして宣べ伝えることができよう。「良い知らせを伝える者の足は、なんと美しいことか」と書いてあるとおりです。”（ローマ信徒への手紙　10：13～15）

［信仰コラム］ 事 後 感 謝 と 事 前 感 謝

″感謝のいけにえをささげる者はわたしをあがめる。自分のおこないを慎む者にはわたしは神の救を示す 。″(詩篇 50:23)

感謝の生活は聖徒らしい暮らしの特徴の一つです。また、キリストを信じるため、従う変化と標的の一つでもあります。 聖徒らしい感謝生活をするためには一方でキリストによる感謝の理由を教えて自覚しなければならず、一方では世俗的虚栄と欲を十字架に釘を刺しなければなりません。 われわれの感謝生活を豊かにするため、事後感謝と事前感謝に関して説明します。

第一に、私たちは事後感謝生活をしなければなりません。
事後感謝という'ことが過ぎた後の感謝'を話します。
今日の現実が過去事よりもさらにリアルために現実の欠乏と困難によって、このことに関連した感謝が消滅しやすいです。 豊かな感謝生活をするためには、かつて経験したことのうち、感謝したことを記憶し、現在を、感謝で埋めていくようにしなければなりません。
現実がもどかしくて困難な状況だとしても神様が手伝いして引き渡した過ぎたことを追憶して今日を感謝で装飾することができます。 誰にも健忘症が多少あるが、健忘症が全部悪いわけではありません。 それで歳月が薬と言う諺が生まれたものです。 しかし、非常に悪い健忘症があります。 事後に感謝することを忘れてしまう健忘症がそれです。
神様の支援中心でエジプトから解放され、神様が約束したカナンの地に向けて行進していたイスラエルの民は過ぎたことに感謝すると、その最後がないのです。
それでも彼らは現実の問題だけを拡大解釈して不平して恨んだ結果で信頼を失ってしまってしまいました。
神様の怒りを買うことになりました。 それで神様の懲罰で広野で彷徨したが、死んで行かなければならなかったです。 たとえ我々の当面した現実に欠乏と困難があったとしても神様が恩寵をたれた昔の事を記憶して今日を感謝することで埋めて飾ると、後日、今日を振り返って追憶する時'過ぎた今日'が感謝の泉がなることです。

第二に、私たちは事前感謝生活をしなければなりません。
事前感謝という'ことが行われる前に、或いは仕事を始める前に感謝し'を話します。 事前感謝の生活は神様に祈念して神様の口約束が行われるのを見ため、感謝する生活です。 今日の現実が苦しくて厳しいなら、神様に叫んで祈念してください。 その後に回答を信じて事前に感謝してください。 イエスさまがラザロの墓の前で祈祷することを″父よ、私の話を聞いたことを感謝します。 いつも私の話を聞くのを私が知ったのでございます。″して″ラザロよ、出て来い″と叫びと死んだラザロが手足をあさぬのでゆわえるまま出ました。 現実的に暗くて難しい問題にぶつかった時、どのように祈る、感謝するかを神様が模範と見てもらったものです。 祈祷したことごとにあらかじめそのことに対する神様の回答を確信して感謝の気持ちを表す生活をしなければなりません。
そして約束した言葉を通じて明日を見つめてみると、期待と希望で、我々の心がいっぱいになって感謝の気持ちを持つようになります。 現実に欠乏と困難と問題があるにもかかわらず、今日一日を感謝しながら生きることができるようにしている神様の口約束が無数に多いです。 ″それだけではなく、患難をも喜んでいる。なぜなら、患難は忍耐を生み出し、忍耐は錬達を生み出し、錬達は希望を生み出すことを、知っているからである″(ローマ人への手紙 5:3、4)、″神は、神を愛する者たち、すなわち、ご計画に従って召された者たちと共に働いて、万事を益となるようにして下さることを、わたしたちは知っている。″(ローマ人への手紙 8:28)しました。 そして復活と天国に関する幸福な口約束の言葉があります。 また、″見よ、わたしはすぐに来る。報いを携えてきて、それぞれのしわざに応じて報いよう。″(ヨハネの黙示録 22:12)しました。 このような約束を取って事前に感謝する生活をすれば神様を向けた感謝で一日をぬうようになることです。
過ぎたことに対する事後感謝と迫ったことに対する事前感謝が今日を生きている皆様の生活の中で超えるて神様を映画をそそって神様からもらった多様な救援を体験してください。

「チョヨンモク牧師先生の信仰コラム‘緑の牧場、清い川’本の語り中」

非 対 称 の 戦 力

恵みと真理教会 **チョヨンモク** 牧師

朝鮮半島は北朝鮮の挑発とテロによって一触即発の危機が数えきれなく繰り返されています。聖書には危機を対処して乗り越えるお手本になる先例がたくさん記録されています。 私たちはこのような記録を通じて教訓を得て模範としなければならないでしょう。
今日はダビデ王が極端の危機をどのように対処して乗り越えたのかをよく見ようと思います。今日の本文が記録されたサムエル記下はダビデ王がアブサルロムの反逆を対処して乗り越えた話があります。 ダビデの息子の中アブサルロムは権力に対する欲望が強かったです。 彼はまっすぐ王になりたかったです。 結局アブサルロムは父のダビデ王の王位をさんだつしようと決心して反逆をはかりました。 彼は緻密に仕事を進行させました。車と馬を準備して警護部隊を組織しました。 アブサルロムは 4 年の間手まめに民心を閨閤しました。 王に裁判を請じに来る人々を中途で防いで民心を盗みました 。 ついにアブサルロムは自分の故郷であるヘブロンに行って反逆の旗印を持ちました。アブサルロムはイスラエル各支派に一遍に人を送ってアブサルロムがヘブロンで王になったと知らせるようにしました。 この消息をきいた民がダビデが死んだとか王位で退いたことで見誤らせました。 アブサルロムに加わる民の数が多くなりました。 アブサルロムはダビデの謀士で活躍したアヒトペルを請じて謀士にしました。
アブサルロムの反逆消息をきいたダビデ王は慌しく逃避道に上がりました。 戦争経験が豊かな百戦老将ダビデの逃避した理由があります。彼はエルサレムを戦地で作ることができなかったし息子と争うことができなかったです。 すべての信僕がダビデ王をついて行きました。民が泣きわめいて避難の道に上がりました。アブサルロムの反逆にアヒトペルが加わったという情報がダビデに飛んで入りました。 これは非常に脅迫的な消息でした。 ダビデはアヒトペルがいくら知略がすぐれた謀士というのをよく分かっていました。 しかしダビデには対策がありました。 それは神様に祈るのでした。ダビデは直ちにこんなに祈りました。 “アヒトペルがアブサロムと共謀した者のうちにいる」とダビデに告げる人があったのでダビデは言った、「主よ、どうぞアヒトペルの計略を愚かなものにしてください」。” （サムエル記下, 15 :31)
フセがダビデを当たりに出ました。 ダビデはフセをエルサレム城に行かせてアブサルロムが有利な作戦計画を立てることができないように作用するとか戦略を探知してダビデに知らせる任務を任せました。 ダビデ王の仲間はエルサレムを発って甘藍山を越えてヨダン江に下がる道で逃避しました。 反逆者アブサルロムと彼の支持者がエルサレムに無血入城をする時フセは双手をあげて “王よ万歳、王よ万歳” しながら歓迎しました。

アブサルロムが疑心を抱いて彼の真義を推しはかりました。 しかしフセはアブサルロムの政権を合法的なことと認めて伝統性を宣言するものを言ってアブサルロムの心を嬉しくしました。 その結果アブサルロムの疑心は払拭されてフセを彼の側近に残すようになりました。このようにフセは危険を冒してダビデの指示を遂行しました。 アブサルロムは謀士アヒトペルに謀略を言うようにしました。 アヒトペルはダビデ王をまっすぐに追撃して速戦即決を試みなければならないと言いました。 ダビデ王に付く者等は少数の警護部隊と勇士外には武装しない寄せ集めである民であるからダビデの仲間が休む暇を与えずにアブサルロムの精鋭部隊が彼らをだしぬけに襲撃すれば驚いて肝をつぶして散らばると言いました。 そしてダビデ王だけ殺せばいいと言いました。 ダビデ王が死ねばその追従者は皆アブサルロムに帰って来るはずなのにアブサルロムがダビデ王の後継者になることは正当な手続きであるからであると言いました。 イスラエル長老がすべてその言葉を正しく思いました。
ところでアブサルロムが不意に “フセも呼びなさい。私たちが彼の口で何のものが出るか聞いて見よう。” しました。 フセは言うのを “タンからブエルセバに至るまで全イスラエルを海辺の多くの砂のように王に集めて王が親しく戦地に出てください。彼があるべきな所に行って露が地に下しのように彼を襲えば彼はもちろん彼と一緒にいた部下も一人も生き残ることができないだろう。もし彼がどんな城邑に退いたら全イスラエルがその城邑で綱を持って行ってその城邑を谷まで連れて行くはずであるからその城邑では小さな石一つさえ探すことができないだろう。” しました。 アブサルロムと全イスラエル人々がいうのをフセの謀略はアヒトペルの謀略よりもっと良いと言いました。 “これはエホバがアブサルロムに災いを下げようと思ってアヒトペルの良い謀略を折ってしまうことに決心したからであった”と聖書に記録されました。 フセは戦略会議の過程をダビデに知らせるために直ちに行動を取りました。アヒトペルの謀略と自分が施した謀略の内容を知らせました。 若しものことを思ってダビデ王の仲間が今夜を越さずにヨダン江を渡るように忠告しました。 そしてダビデは危機をまぬかれたし結局反乱は押えられてダビデ王は王宮に帰って来るようになりました。 この事件には貴重な教訓があります。

第一、神様のみ旨を逆って行えば結局には破滅するということを教訓しています。

ダビデを引き継いで王になる後継者はアブサルロムではなくてソロモンでした。 これは神様の決めたみ旨でした。 だからアブサルロムが王位取り合いのために周密に反逆を計画して勢力を形成して王宮を占領したが結局には無駄になってしまいました。 ダビデ時代最高の謀略人アヒトペルの謀略も無駄になってしまいました。 神様のみ旨を勝つことができる謀略はないです。 神様のみ旨を逆って行う人の結末は破滅です。 ダビデ王は彼の息子アブサルロムの反逆によって避難の道に上がってヨダン江の東の方にあるマハナイムに至るようになりました。 その所で三人の人の後援者によって十分な物資を普及受けました。 一方アブサルロムはフセの謀略どおり行って来た民の中で大々的な徴集をして大軍を導いてヨダン江を越しました。

ダビデは死活をかけた激戦のために既存勇士と新しい志願兵で軍隊を編成しました。 両方軍隊はマハナイムに近いヨダン東の方にあるエフライム茂みで熾烈な戦闘をしました。 アブサルロムの軍隊がダビデの軍隊に惨敗して二万人ほど殺されました。 アブサルロムはダビデの信僕を避けて急に逃げました。 ところで彼の乗った馬が大きいくぬぎの下に経つ時にあいにくアブサルロムの髪の毛が木にかかるようになりました。 彼が乗った馬がそのまま駆け出してしまうのでアブサルロムが空中に結んで走るようになってしまいました。 この光景を見たダビデ王の軍隊がヨアブ将軍に報告したしヨアブ将軍がアブサルロムを殺しました。

第二、神様を頼る聖徒の祈祷は悪い者の考え謀略を無駄にならせるということを教訓しています。

ダビデはいつも神様を頼って祈りました。 詩編にこんなに記録されました。
“わたしは山にむかって目をあげる。わが助けは、どこから来るであろうか。わが助けは、天と地を造られた主から来る。”（詩篇, 121:1,2) ダビデは反逆者アブサルロムの軍隊が王宮を向けて進撃して来てすぐれた謀略がアヒトペルがアブサルロムに加わったという消息をきいて直ちにこんなに祈りました。 “「主よ、どうぞアヒトペルの計略を愚かなものにしてください」” 祈祷は敵の謀略を力無くする一番良い武器です。 神様は人の計策が無駄になるにもなさって判断が誤れさせたりなさいます。 アヒトペルの謀略は卓越であったが神様がその謀略が無駄にならせました。 アヒトペルは自分の提示した謀略が拒否されてフセの忠告が採択されることを見てまっすぐに故郷へ降りて首をつりました。 アブサルロムがフセの忠告どおり行うようになれば敗れるようになることを眺めたからです。

聖徒の皆さん、私たち国家の処した現実は甚だしく難しいです。 南北関係とともに隣り国との関係がそうです。 いつ戦争が起こるかも予測不可能です。 北朝鮮は大量殺傷が可能な核兵器、生物化学武器、弾道ミサイルなどで私たちを脅威しています。 砲兵戦力、潜水艦の戦力が私たちより越等です。 こんな非対称戦力を私たちの力では手におえることができないです。 友国アメリカの助けがなければ戦力では北朝鮮を手におえることができないです。私たちがこれを恐れることだけなくそれよりもっと卓越な非対称戦力を持つことができるという事実に念頭に留めおかなければなりません。それは福音伝道と祈祷です。 私たち全国民が偶像を捨ててまことの神様、イエスキリストの神様を頼るようになったら神様が私たちの盾になってくださるでしょう。 私たちは力をつくして福音を伝えなければなりません。 そして神様を頼って “神様、赤化統一を企てる者等の謀略と計策を愚かにさせてください。” と昼夜に切に求めなければなりません。 神様がダビデの祈祷に回答なさったように私たちの祈祷に回答なさって赤化統一と戦争準備に狂奔する者の企図が無駄にならせてくださるでしょう。聖徒の皆さんは卓越な非対称戦力を思いながら福音伝道と祈祷につくすように願いします。